

2024年度活動概要

SLA研究会

SLA 研究会では、第二言語習得研究の理論と英語教育への実践を研究会創設以来の総合テーマとし、2024年度は「第二言語語用論の実証研究に基づく英語教育」をテーマとして活動しました。毎月定例読書会を開催し、課題図書を決めて輪読するとともに研究報告や論文紹介なども行いました。

- ・定例読書会（毎月第3土曜日にオンライン開催）

課題図書：Kecskés, I. (Ed.). (2022). *The Cambridge handbook of intercultural pragmatics*. Cambridge University Press.

今年度は特に、第二言語語用論における会話分析の長期的視点からのアプローチや、発話能力向上の指導法、語用論的指導の可能性に着目し、読書会で取り上げるとともに、公開ワークショップを開催しました。また、公開講演会を2回開催しました。

- ・公開講演会（オンライン開催）

(1) 第1回公開講演会

日時：2024年12月21日（土）14:00-15:30

講師：石原紀子氏（法政大学教授）

演題：国際語としての英語の語用論的指導：グローバル時代の多文化間交流に向けて

(2) 第2回公開講演会

日時：2025年1月11日（土）14:00-15:30

講師：Eric Hauser氏（University of Electro-Communications 教授）

演題：Longitudinal Research in CA-SLA: A Review

- ・公開ワークショップ（オンライン開催）

日時：2024年8月17日（土）14:00-15:30

講師：Pino Cutrone氏（長崎大学准教授）

演題：Bridging the Gap: Putting Theory into Action for Effective Communication in Japanese EFL Students

いずれも盛況で、参加者からも高い評価を得ており、来年度以降も継続したいと考えています。

また、会員の研究活動を活性化するため、学会発表や研究会に関連する論文の発表を通じて、研究の発展に努めてきました。

- ・SIG発表

第63回国際大会にて Pedagogical Pragmatics for EFL（ポスター発表者：吉富朝子、藏屋伸子）

- ・論文

三浦愛香 (2024) 日本の高等教育機関における語用論的能力の指導の実態(多言語教育研究ジャーナル, Vol. 5, p. 74-85)

SLA 研究会のホームページ <https://jacet-sla.jimdofree.com/> にて広報活動と新規会員募集に努め、今年度は2名の新規会員が加わりました。